

令和4年度 第2回栃木県立茂木高等学校学校運営協議会報告

- 1 期 日 令和4年12月5日（金）14:00～15:30
- 2 場 所 栃木県立茂木高等学校 プレゼンテーション室
- 3 出席者 委員（省略）＊川島委員、佐藤委員、小松崎委員は所用により欠席
小瀧 学（栃木県教育委員会総務課指導主事）
山岸 峻也（栃木県教育委員会生涯学習課社会教育主事）
上野 竜一（芳賀教育事務所副主幹）

- 4 校内出席者
校長（委員） 事務長 主幹 教務主任 学習指導部長
生徒指導部長 特別活動部長 教務副主任

5 第2回学校運営協議会の主な内容

1 開会

校長挨拶、県教委より任命書伝達（大瀧温子委員）があった。

2 協議

(1) 令和4年度授業評価について

・事務局（大森主幹）

6～7月に教員が担当する授業の生徒に対しアンケートを実施した。授業における話し方、説明の丁寧さ、板書のわかりやすさ等の基本スキルについてはおおむね良好であった。ICTの活用については、各教科で電子黒板等の機器が盛んに活用されており、効率的な授業展開によって生徒の考える時間を十分確保できている、視覚化により生徒の理解促進につながっている等の効果をあげている。課題としては、板書と組み合わせた効果的な活用方法の検討等が挙げられた。対話の重要性については、その重要性が共有され授業に取り入れられているが、コロナ禍で対話の機会をどう工夫して設定するか、対話が深い学びに結びつくためにはどうしたらよいか等の課題がある。主体的な学びについては、振り返りシートの活用により生徒の主体性向上につなげている教科が多かった。課題としては幅広い学力層のそれぞれにいかに関与性を育成するかが挙げられた。その他、生徒の興味関心をひく題材開発を進めつつ題材を学ぶ意義・目的を明確化する、教科内での情報共有を積極的に行い教科全体で学力向上を図る、新しい学力観に合わせたテスト問題を開発・作成する等が挙げられた。

・クエート委員

電子黒板の活用が盛んということだが、ここ（プレゼンテーション室）にあるものがそうなのか。また、特別教室にしか入っていないのか。

・事務局（主幹）

この場所にあるのが百周年記念事業で購入した電子黒板である。この他特別教室に4台、全普通教室に入っている。

・渡辺委員

電子黒板とはどのような機能をもった機材なのか。実演してほしい。

・学習指導部長

プロジェクターと接続しているので、PCの画面を映写することができるほか、最近ではコロナ禍でのZOOM配信にも使用している。パワーポイントの作成には時間を要するが、授

業内で生徒の使用するプリントと同じものを映し、生徒と同時に学習を進めることができるなど、時間短縮にもつながっている。

- ・赤羽委員

振り返りシートはどのくらいの頻度で行っているのか。

- ・事務局（主幹）

教科によっては毎時実施し、コメントを記入したものを返却するなど、頻繁に生徒とやりとりをしている。

- ・赤羽委員

対話的な学習についてはグループワークが多いということか。

- ・事務局（主幹）

今年度、コロナの状況が落ち着いた時期もあったので、少しずつ以前の対話形式の学習を授業の一部に取り入れて実施している。

(2) 令和4年度学校評価について

- ・事務局（主幹）

10月に生徒・保護者・職員対象にアンケートを実施した。今年度は生徒・職員アンケートでQRコードを活用した方法で実施した。保護者については回収率の低下が懸念されたため、従前の紙ベースで実施した。回収率は保護者91%、生徒96%であった。結果については、次の学校運営協議会で公表予定である。

- ・赤羽委員

質問の内容について、変更した点、注視している質問項目は何か。

- ・事務局（主幹）

この質問項目にして4年目となる。質問項目については昨年度とほぼ同様である。注視している点としては、保護者アンケートの学校側の発信する情報の伝達がうまくいっているか、お子様を入学させてよかったかなどである。まだ集計中ではあるが、コロナ禍で保護者が学校に来る機会が少なくなっているため、学校での状況がわからないという回答も少なくなかった。今後学校側の情報発信をいかにしていくかが課題である。

- ・赤羽委員

地域の方々から応援していただく、ご助言いただくことが学校運営協議会の趣旨であるので、コロナ禍で難しい状況ではあるが、工夫してほしい。

昨年度のアンケート結果で気になったところはどこか。

- ・事務局（主幹）

昨年度の保護者アンケートでは、いじめの発生防止・早期発見・解決に向けた指導、悩みを相談しやすい環境づくりの質問について、「わからない」という回答が多く、今年度も同様の項目で増加している。やはり学校からの情報発信の重要性を感じている。

- ・赤羽委員

教員アンケートの結果の傾向はどうか。

- ・事務局（主幹）

集計中ではあるが、「進学型の総合学科という本校の特徴をわかりやすく伝えている」「生徒の進路希望に応じた適切な科目が設定されている」の質問で評価が下がっている。これは新教育課程の影響によるものと思われるが、よりよい教育課程にむけて今後も検討を続けていく必要がある。一方で、生活指導に関して「組織的に対応している」の質問では昨年度よりも評価が上がっている。学校全体で取り組むという教員の自覚の表れとして捉えている。

- ・赤羽委員

選択科目設定についてはどのような意見があったのか。

- ・事務局（主幹）

現2・3年生は旧課程でこれまでの蓄積があるが、現1年生は新課程で初めての教育課程の実施となる。3年間かけて準備してきたが、まだ改善の余地があり、教育課程委員会を中心に課題の早期解決にむけて取り組んでいるところである。具体的には、私立文系の進路を考える生徒に対する対応に改善の余地があると捉えている。

- ・堀江委員

昨年度の結果で、いじめの認識について、生徒、保護者、教員の認識にずれがあったのが気になった。また、QRコードでの実施にどれくらいの費用がかかるのか教えてほしい。

- ・事務局（主幹）

今年度もいじめの認識についてずれがあり、教員 90%、生徒 70～80%、保護者 60%という状況であった。QRコードの費用についてはかかっていない。

- ・赤羽委員

できるだけ話しやすい環境づくりを進めていくことが重要である。また学校全体で共有し、組織として対応することも重要である。

(3) 茂木高等学校の魅力化・特色化について

- ・堀江委員

今年 11 月からゆずも塾が2年目に入った。これまでは茂木高校の魅力化を目的としていたが、そこに今年度は茂木高校生の魅力化を加え動いてきた。具体的には、教科の学習支援、探求学習の支援を柱に、現在3名の講師で動いている。今年度は塾生数目標 120 名のところ 147 名の塾生が在籍している（11 月 1 日現在）。しかし、出席率は目標 1 日平均 40 名のところ 25 名となっており、出席率の向上が今後の課題である。今年度、面接の実施を重点としたところ、出席率の向上に若干の効果があつた。また、夏休みに今年3月に卒塾した卒業生を招いて、教科指導のサポートをしてもらった。探究活動については、もてぎテレビで放映するための町内の商店を紹介するCM制作や道の駅とタイアップした商品のポップづくり（売り上げの変化についての分析を含む）を実施した。今年度の反省としては、出席率の向上への対策が挙げられる。また一口に茂木高校の魅力化と言っても、生徒・保護者・教員からの視点でそれぞれ異なる。今後はそれぞれの視点を踏まえて、引き続き魅力化向上に取り組んでいきたい。ゆずも塾に関する情報発信も重要であり、より保護者や地域に何をしているかが伝わるようにしていきたい。今年 10 月 3 日には茂木中学校にも公営塾を開設することができた。現在講師 1 名で動いているが、来年 1 月には 2 名、4 月からは 3 名体制になる予定である。茂木高校も 4 月からは 1 名増員し、4 名体制になる予定である。来年度は中学校や保護者、地域との連携もさらに充実させていきたい。最後に 12 月 21 日に特別講座「笑育」を実施予定である。昨年実施したところ町の事業として導入してほしいという声があつたため、今年度夏には小・中の教員と町職員合同で開催した。ゆずも塾での実施は2回目となる。

- ・赤羽委員

探求学習について、実際におこなった生徒は「ゆずも塾」の塾生か。またどのくらいの期間で取り組んだのか。

- ・堀江委員

塾生 7 名が参加した。1、2 か月に 1 回程度、道の駅の担当者や生産者に取材し、商品についての知識を学びながら、最終的にポップの少ない文字数にどう表現するかに生かしている。長期間による取り組みである。

- ・赤羽委員
ゆずも塾の講師はどう関わっているのか。
- ・堀江委員
取材の引率等は講師1名が行っている。ポップづくりについては、専門の講師を招いてレクチャーをしていただいた。
- ・赤羽委員
学校とゆずも塾との連携で難しい面はあるか。
- ・堀江委員
当初は県立学校の中に町立の塾が入入ることが難しい点だった。現在はゆずも塾講師が高校の非常勤講師として教壇に立っており、職員室への入室の機会も増え、昨年度よりも教員とのコミュニケーションが密になっていると思われる。
- ・事務局（主幹）
学校としては、ゆずも塾講師と生徒との間に必ず担任が入り情報共有を行うようにしている。
- ・校長
今年度は組織改編を行い、「学校魅力推進化委員会」の中にゆずも塾連携担当を設け、定期的に情報共有を図っている。
- ・赤羽委員
先ほど、生徒・保護者・教員にとっての魅力化の話があったが、今後は地域としての魅力化にもつなげていけたらよいと感じた。
- ・堀江委員
当初「茂木高校の魅力化を茂木町の魅力化につなげていく」という目的から公営塾が始まった。そこから移住・定住や子育て支援につなげていくことも視野に入れているので、前向きに取り組んでいきたい。
- ・クエートオ委員
魅力化に関して、茂木高生の活躍を紹介したい。ふみの森で読み聞かせボランティアに取り組んでいるが、今年になって茂木高生の参加が増えている。ぜひこのような生徒の活躍をいろいろな所で発信してほしい。
- ・赤羽委員
本校には「茂木手帳」というものがあり、生徒たちが教員と協働して制作した。このように本校生は意欲的に活動したいという思いをもつ生徒がたくさんいる。ぜひそういった生徒の活動を様々な場所に発信してほしい。

(4) その他

①創立100周年記念式典について

- ・事務局（主幹）より、真岡新聞の記事をもとに10月28日（金）に実施した記念式典及び記念事業について報告があった。その後、当日の式典の様子を動画で視聴した。
- ・堀江委員
地域への発信に関して、茂木町にはもてぎテレビがあるが、県立高校がゆえにカメラが入ることができない状況があった。今回の百周年記念式典はもてぎテレビで番組として全編放送される。おそらく高校の行事で全編放送されるのは今回が初めてだと思われる。茂木町民はもてぎテレビで町の様子が流れることを楽しみにしており、今後、高校での行事の様子が少しでも多く放映されることを願っている。
- ・赤羽委員
本校は茂木町と連携協定を結んでいるので、個人情報の取り扱いに留意しながら、実現できるとよいと思う。

- ・キュートオ委員

友人に購入希望者がいるのだが、百周年記念品である時計と記念誌の在庫はまだあるか。そういう情報も発信できればいいと思う。

- ・事務局（主幹）

まだ在庫はある。

- ・赤羽委員

そういった問い合わせは学校にあったのか。

- ・事務局（主幹）

1件問い合わせがあり、対応した。

②令和4年度学校説明会について

・事務局（教務主任）より、今年度の学校説明会について説明があった。訪問型の説明会は、芳賀郡の中学校から依頼があった場合、本校職員が訪問して説明をする形態である。主催型の学校説明会は12月9日に茂木会場で、12月15日に真岡会場で開催予定である。昨年度は茂木会場で139名、真岡会場で96名の参加があった。アンケート結果も好評であり、中学生、保護者の高い関心が感じられた。この後、説明会でのプレゼンテーション資料を視聴した。

③今後の予定等

- ・事務局（主幹）

第3回学校運営協議会では学校評価の結果について報告予定である。学校側としては2月14日（火）、16（木）、17（金）のいずれかで開催したいと考えている。委員の皆様には、後日、日程調整についてご連絡差し上げる予定である。

また、「ゆずも学」の課題研究発表会を1年生は1月27日（金）、1・2年生は3月18日（土）に実施予定である。改めて開催通知を委員の皆様へ発送させていただくので、ご都合がつけばぜひ参観頂き、ご指導願いたい。

○以上をもって、全ての協議を終了した。

○この後、事務局より各学年のLHR参観の案内があり、散会となった。